

第七節 商工業

1 「経木仕切りと配送寛」

天保十三年（一八四二・二点）

〔解説〕 江戸末期の本村の特殊産業として、富士山麓の松・檜・杉などを使って割木・経木・曲輪などが生産され、主に江戸三十間堀二丁目（銀座四丁目）・浅草福井町・神田多町・同九軒町などの問屋と取引された。

①の史料は、当村渡辺秀右衛門と浅草福井町経木屋要七の取引内容を示す「仕切帳」であり、②は商品の「積付寛」で、足津・房州・清水などの船を使い、海路で各問屋へ商品を配送した明細寛えである。

① <sup>（表紙）</sup> 天保十三寅 経木屋要七④

極月

経木板仕切之帳

渡辺秀右衛門様

仕切書

戸田・菊吉船

寅三月十一日出、四月朔日入

一〇 経木 六箇

掛り廿七匁三分

ノ

此品

九十わノ 貳百

一 薄 六箇

代百六十式匁

掛り引ノ百三十四匁

七分

沼津・幸吉船

寅三月十一日出・四月四日入

一〇 経木 拾八箇

掛り八十匁匁

九分

ノ

此品

九十わノ 貳百

一 薄 十八箇

代四百八十六匁

掛引ノ四百四匁

壹分

沼津、佐助船

寅四月七日出、同廿九日入

一〇 経木 貳箇

掛り九匁

ノ

此品  
九十わノ 貳百

一 薄 貳箇

代五十四匁

掛引ノ四十五匁

沼津、友右衛門船

寅七月朔日出、同十二日入

一〇 経木 七箇

掛り金貳匁

壹分五厘

ノ

此品

九十わ入 貳百

一 薄 七個

代百八十九匁

掛り引ノ百五拾七匁

五分

井田、勘十郎船

寅九月廿八日出、十月十八日入

一〇 経木 拾箇

掛り四十五匁

ノ

此品  
五十わ入 貳百

一 薄 拾箇

代貳百七拾匁  
掛り引ノ貳百廿五匁

一 惣 四十三箇

ノ九百六十六匁

三分

代高ノ壹ノ百六十一匁五分ト

五十八匁五厘

五分引ノ九百八匁

式分五厘

寅八月六日 古関村

内金八両也 甚左衛門様

相渡ス

引ノ四百廿八匁

式分五厘

外ニ

一金貳拾兩也、前々仕切残り

惣ノ金廿七兩ト

八匁式分五厘

内金

寅三月四日

一金壹兩也 御出府ニ付相渡ス

同十月二日

一金拾貳兩 同断

外正月七日

一金五兩貳朱ト 喜右衛門様

七十八匁

相渡ス

引ノ金九兩也

預リ置申候付

外正月七日改

② (表紙) 積

付 帳

(年不詳)

(前欠カ)

足津、扇七船

一 割木 拾六箇

四通ノ十一箇半 三通ノ三箇印

式通ノ壹箇半

九月十五日

三十間堀

經木屋岩藏殿行

右同船

一 同 八箇

四通ノ七 三通ノ壹印

九月十五日

神田多町壹丁目

伊勢屋久兵衛殿行

房州、平藏船

一 曲輪 五拾四箇

尺式廿五箇 七寸式拾箇

九寸九箇

一 割木 四拾箇

三通ノ八箇 六通ノ七箇

四通ノ三十一箇

一 同半 七箇

式通入

ノ九十五箇也

十月廿五日

神田九軒町

信濃屋善吉行

右同船

一 同 八箇

四通ノ六 三通ノ式

一 曲輪 廿八箇

尺式十八箇 九寸三箇

七寸七箇

ノ三十六箇也

十月廿五日

三十間堀

経木屋岩藏殿行

右同船

一 曲輪 式拾式箇

尺十五箇 九寸四箇

七寸三箇

一 割木 拾五箇

四通ノ十三箇 六通ノ式箇

一 同 三式半 七箇

ノ三十八箇也

十月廿五日

神田多町七丁目

伊勢屋久兵衛殿行

清水、源六船

一 割木 八箇

六通ノ六箇 四通ノ式箇

十一月十九日

三十間堀

経木屋岩蔵殿行

右同船

一 同 八箇 但し七箇半也

六通ノ七箇 三通ノ老箇

十一月十九日印

神田九軒町

信濃屋善吉殿 (行)カ

ノ式百九個也

右之通預入申候処、相違無御座候、以上印

十一月廿五日 改ノ

川村半四郎

沼津

成沢村

富右衛門殿

(鳴沢・渡辺泰一家蔵)

2 「経木板取引仕切帳」 天保十五年(一八四四)

嘉永七年(一八五四)

〔解説〕 江戸時代の本村を代表する産業の一つに、経木の生

産販売があった。経木は富士山の入会山から伐り出された杉・

松などを材料として、特大のカンナで薄くけずったもので

餅菓子などの包装に使われた。この作業のことを本村では「経

木ツキ」といった。この史料の(1)は天保十五年、本村の秀右

衛門が江戸浅草福井町一丁目の経木屋要七と、(2)の史料は嘉

永七年、同八左衛門が、同三十間堀二丁目の岩蔵と取引した仕

切帳であり、海路沼津から江戸へ運んだことが注目されよう。

(1) (表紙) 天保十五年十月 経木屋(浅草・福井町壱丁目)

要 七⑩

経木板仕切之帳

渡辺秀右衛門様」

仕 切 書

昌徳丸友七舟

卯三月十八日出 四月四日入

⑩一〇 経木 七箇

掛り金貳分

壱匁八分五厘

ノ

此品

一 薄 九十八 式〇  
七箇

計百八十五匁

掛り引ノ百五十七匁

老分五厘

八幡 弥兵衛船

卯四月出 五月十三日入

④一〇 経 木 五箇

掛り金老分仁朱

式匁五厘

此品

一 薄 九十八 式〇  
五箇

計百三十五匁

ノ

引ノ百十二匁式分五厘

沼津積

小須 勇吉舟

卯五月廿四日出 六月九日入

④一〇 経 木 五箇

掛り金老分式朱

式分五厘

ノ

右不残

一 薄 五箇 式〇

計百三十五匁

ノ

掛り引ノ百十二匁式分五厘

同積 源右衛門舟

卯五月十六日出 六月十日入

④一〇 経 木 廿箇

掛り金老兩式分

老匁

此品

一 薄 九十八 式〇  
廿箇

計五百四十匁

ノ

掛り引ノ四百四十五匁

仁科 徳藏舟

卯六月出 七月二日入

①一〇 経 木 貳 箇

掛リ九匁分

ノ

此品

一 薄 九十八 貳 箇

計五十四匁

掛リ引ノ四十四匁九分

沼津積

甚三郎舟

卯四月廿九日出

①一〇 経 木 廿一 箇

掛リ金匁貳分

五匁貳分五厘

ノ

七月三日入

右之品

一 薄 九十八 廿一 箇 貳〇

計五百六十七匁

ノ

掛リ引ノ四百七十匁

七分五厘

沼津 源右衛門乘

卯九月十四日出 天九月十六日入

①一〇 経 木 九 箇

掛リ四十匁五分五厘

ノ

此品

一 薄 五 箇 貳〇

計貳百四十三匁

ノ

掛リ引ノ貳百貳匁〇五厘

沼津 新七乘

卯閏九月十六日出 十月十一日入

①一〇 経 木 八 箇

掛リ三十六匁

四分

右不残

一 薄 九十人  
八 箇 式〇

計式百十六匁

ノ

掛り引ノ百七十五匁

六分

阿良利 惣右衛門乗

卯十一月二日出 同十六日入

一 〇 經 木 三 箇

一 掛り十三匁六分五厘

ノ

右不残

一 薄 九十人  
三 箇

計八十匁匁

ノ

掛り引ノ六十七匁三分五厘

万吉舟

辰四月八日出 廿四日入

③一 〇 經 木 四十式箇

掛り金三兩

十匁匁匁分

ノ

右不残

一 薄 九十人  
四十式箇

計匁メ百三十四匁

ノ

掛り引ノ九百四十式匁

九分

④惣ノ式メ七百三十九匁

式分

卯三月三日 内

一 四百〇九文 天科  
式メ百目

同

一 四百三十式文 同  
式メ二百廿目

十月廿二日

一 四百五十八文 同  
式メ五百目

同

一 五百八十六文 同  
式メ二百目



⑨メ卷メ八百八十五文

此銀拾七匁四分

閏九月十九日

⑩一金拾両者御出府之節相渡し申候

惣引

メ式メ百廿一匁

八分

右之通り預り置申候 以上

辰十月廿一日改

(鴨沢・渡辺泰一家蔵)

(2) (表紙) 嘉永七年寅六月 經木屋<sup>⑨</sup>

岩蔵

經木仕切帳

經木屋八左衛門様

追而申上候、然者沼津<sup>〆</sup>〇印付ぬれいたみ有之

候ニ付、金式朱ト六匁之所御まけ可被下様、奉

願上候、以上

一金七両也

右之通り相済し申候<sup>⑨</sup> (以上表紙裏に記載)

沼津 兵五郎乘

丑正月廿日出 二月十四日入

⑨一全九十わ入 七箇

掛り三十三匁 式分厘

同 庄吉乘

同

三月三日出 四月十六日入

⑩一全九十わ入 拾九箇

かゝり九拾匁 式分五厘

戸田 幾三郎松

同

四月廿七日出 五月四日入

⑨一全 同 五箇

掛り廿四匁

同 七右衛門乘

丑

五月四日入 六月二日入

㊦一全 同 式箇

掛り九匁 六分

右同乗

同

五月四日出 六月二日入

㊦一全 同 三箇

掛り十四匁四分

沼津 庄吉乗

五月六日出 六月二日入

㊦一全 同 式箇

掛り九匁六分

戸田 喜兵衛乗

同

六月二日出 同廿二日入

㊦一全九拾把入四 八箇

三寸五分式

四寸 式

掛り三拾八匁

松崎 友吉乗

七月二日出 同廿八日入

㊦一全九拾把入四

五寸 式 四箇

掛り式拾三匁七分五厘

此口〇印付ぬれもの

戸田 菊次郎乗

㊦一全九拾把入五 六箇

五寸 式

掛り式拾八匁八分

一三寸五分 式箇

代四拾式匁

一四寸 式箇

代四拾匁

一五寸 式箇

代四拾式匁

メ百式拾四匁

一別引百拾老匁六分

一九拾把入メ五拾老箇 式百十把かへ

代巻メ三百十一匁四分

メ巻メ四百式拾三匁

掛リメ式百匁〇〇六分五厘

掛リ引メ巻メ式百式十式匁三分五厘

此金式十兩ト  
式十式匁三分五厘

戸田 七右衛門乗

六月廿日出 七月十九日入

⑨一全九拾把入 三箇

掛リ拾四匁四分

正吉乗

九月十一日出 十月朔日入

⑨一全 同 式箇

掛リ九匁五分

戸田 桑次郎乗

十月二十日出 十一月六日入

⑨一全 同 式箇

掛リ九匁五分

沼津 庄吉乗

十月晦日出 十一月二十二日入

⑨一全 同 三箇

掛リ拾四匁式分五厘

沼津 桑次郎乗

十一月廿日出 十二月十三日入

⑨一全 同 式箇

掛リ四匁七分五厘

大ぬれ

戸田 千代八乗

四月廿四日出 五月廿八日入

⑨一全 同 五 六箇

四寸 巻

掛リ式十九匁七分

一四寸 式箇

代拾九匁

式百式拾把かへ  
一九拾把入メ拾六箇

代三百九拾式匁七分

メ四百拾巻匁七分

掛リメ八拾巻匁五分

掛引

メ三百三十匁〇式分

此金五兩式分ト

式匁

二口メ式十五兩三分式朱也

同四月九日 古関村

㊦ 一同金三兩也 佐兵衛渡シ

同六月十八日 同

㊦ 一同金貳兩也 太右衛門渡シ

同六月十五日 上吉田

㊦ 一同金貳兩也 相渡シ

同八月六日 古関村

㊦ 一同金三兩也 佐兵衛殿相渡シ

寅二月十三日

㊦ 一同金三兩也 同

六月廿五日 古関村

㊦ 一同金四兩也 次左衛門相渡シ

六月廿五日 古関村

一同金四兩也 次左衛門相渡シ

メ金貳十兩也

内金引メ五兩三分式朱

鳥沢馬

丑

四月四日入

一薄板 四箇

但シ貳百七拾把

此代金壹兩壹分ト

五匁

二口

メ金七兩貳朱ト

六匁

右之通不殘相渡シ申候㊦

以上

寅七月

(鳴沢・渡辺泰一家蔵)

3

〔曲輪の取引覚〕 年不詳

〔解説〕 文中に曲輪・小婦よかしとあり、いずれも「曲

げ物」の一種で、小婦かしは蒸籠（せいろう）のことであろう。甲府青沼三丁目（現在・甲府市青沼一〜二丁目がある）の輪茂野屋庄吉との取引内容がわかる貴重な史料である。

覚

- 一尺三寸 曲輪 八わ入 一八寸 曲輪 拾貳わ入
- 一尺二寸 同輪 拾わ入 一二六 同輪 拾六わ入
- 一尺 曲輪 拾わ入 一小婦かし是迄拾わ入
- 一九寸 曲輪是が 拾貳わ入 一尺貳寸 曲輪 九わ入

青沼町三丁目

輪茂野屋

庄吉

（鳴沢渡辺泰一家蔵）